

第5節 常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

1. 工学部総合研究棟（本館）改修工事（Ⅲ期）に伴う確認調査

調査地区 常盤構内

調査面積 約147m²

調査期間 平成19年9月19日

調査担当 田畑直彦

調査結果 工学部総合研究棟（本館）改修工事（Ⅲ期）に伴い、Ⅰ・Ⅱ期工事と同様に建物改修工事と配管工事が計画された。掘削工事の平面形は建物沿いの幅約3.5m、長さ約36mの範囲に加えて、西北部に約4m×5.2mの張り出し部を持つ。工事では現地表下約150cmまで掘削が行われたが、ほとんどが造成土の範囲内であった。ただし、張り出し部のA地点では、現地表下30cmで地山である明黄褐色（10YR6/6）シルト、60cmで岩盤〔黄灰色（2.5Y4/1）、明黄褐色（2.5Y7/6）、淡黄色（2.5Y8/4）が縞状に混じる〕を確認した。岩盤は北から南へ傾斜しており、A地点南端部では掘削底面で岩盤を検出した。

以上により、今回の調査区内においても平成15年度^{註1}の調査・平成18年度^{註2}の調査と同様に構内造成時の削平が著しいことが判明した。

[註]

- 1) 田畑直彦（2005）「第1章第5節 工学部本館改修工事に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口
- 2) 田畑直彦（2010）「第1章第4節 工学部総合研究棟改修工事（Ⅱ期）に伴う確認調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』,山口

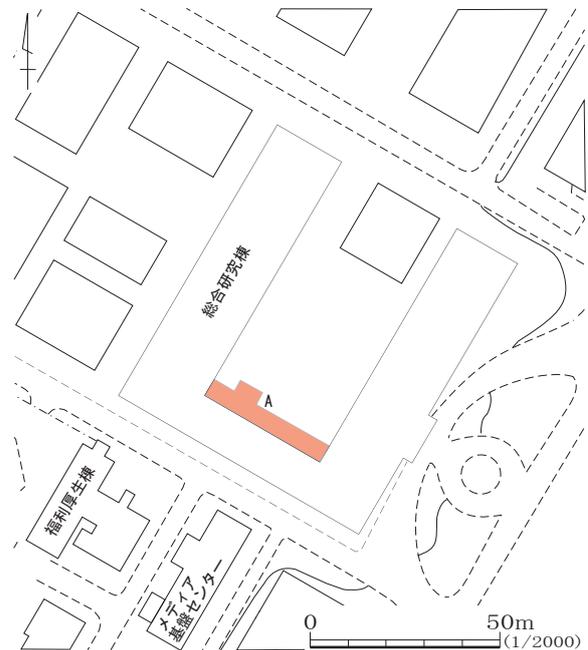


図 27 調査区位置図



写真 43 調査区全景（北西から）



写真 44 A 地点土層断面（北西から）